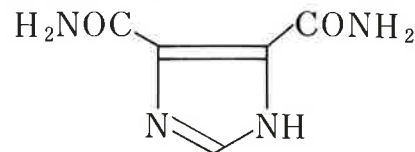


動物用医薬品

IMIDAZON

イミダゾン



成分・その含量	本剤100g中	グリカルピラミド	12g
効能・効果	鶏のコクシジウム病の予防		
用法・用量	飼料1t当り、本剤500g（グリカルピラミドとして60g）を均一に混じて経口投与する。		
容量規格	10kg 缶入りケース、20kg クラフト紙袋		

イミダゾンの特徴

- ① コクシジウム原虫のスポロゾイト～メロゾイト期に有効で、その増殖期の核酸合成を抑制することによりコクシジウム病をズバリ予防します。
- ② 残留性が少なく、かつ排泄も速い予防剤です。
- ③ 連続投与ができ、飼料効率を良好に維持するなど生産性に悪影響を与えません。
- ④ 野外感染鶏の自然免疫獲得を妨げません。
- ⑤ ビタミン、他の薬剤との拮抗作用がありません。

特約店

製造販売元



株式会社 養日化学研究所

〒463 名古屋市守山区大字守山字町北140 TEL (052) 791-2084

1. 効力試験

群	グリカルピラミド 使用濃度	試験 羽数	発症 羽数	斃死 羽数	盲腸病変			
					卍	卄	+	-
1	20ppm	10	0	0	0	4	4	2
2	40ppm	10	0	0	0	0	0	10
3	80ppm	10	0	0	0	0	0	10
対照	0	10	10	8	8	2	0	0

W.L. ♂ 各10羽 E. tenella : 1.8×10^4 個/羽を10日令にて投与

投薬：各濃度で感染前1日より7日間連続投与 剖検：感染後9日

2. グリカルピラミドの安全性(急性、亜急性、慢性毒性)

- ① LD₅₀ 5.4g/kg (本剤として45g/kg)
- ② 4日令、3.5週令、10.5週令のヒナに10g/kg (本剤として83g/kg) 1回投与しても安全であった。
- ③ 実用量の50~100倍を連用すると発育不良がみられるが、投薬を中止すれば3~5日で回復する。
- ④ 飼料中にグリカルピラミドを60~90ppmの濃度で初生雛から成鶏まで連用しても安全であった。

3. 組織内残留

試験設定：グリカルピラミドとして飼料中に80ppm (40ppm) 投与

組 織	投薬中濃度	投薬中止 1日後の濃度	投薬中止 2日後の濃度	投薬中止 3日後の濃度
血 液 中	2.1ppm (0.9)	0.05ppm (0.05)	0 ppm (0)	0 ppm (0)
筋 肉 内	2.2ppm (0.8)	0.1ppm (0.05)	0 ppm (0)	0 ppm (0)
肝 臓 内	2.5ppm (1.0)	0.3ppm (0.1)	0.1ppm (0)	0 ppm (0)

0は0.02ppm未満を示す。

注意事項

- (1) 本剤は産卵鶏には使用しないこと。
- (2) 本剤は長期連用した場合は耐性原虫が出現する恐れがあります。
- (3) 本剤投与後下記の期間は食用に供する目的で出荷等を行わないこと。

鶏：5日